

聖 霊

第6回 人が信者になるときの聖霊の働き②

□アウトライン

1. 油注ぎ
 2. 証印
 3. 内住
 4. 聖霊のバプテスマ
-

Ⅱ コリ 1：21～22 私たちをあなたがたと一緒にキリストのうちに堅く保ち、私たちに油を注がれた方は神です。神はまた、私たちに証印を押し、保証として御霊を私たちの心に与えてくださいました。

- ここには神の働きが3つある。油注ぎ、証印、聖霊の内住である。これらはみな直接的には聖霊の働きであるが、根源的には父なる神の働きである。父なる神が聖霊を遣わして、信者に油を注ぎ、証印を押し、信者の内側に聖霊を与えてくださる。油注ぎ、証印、そして内住、これら3つの働きはどのような意味を持つか？

1. 油注ぎ・・・油注ぎは、旧約聖書では祭司たちや王たちを任命するときになされた。新約聖書では、まず、メシア（キリスト）であるイエスが、聖霊による油注ぎを受けた（使徒4：27、10：38）。そして、イエスの信者にも聖霊による油注ぎがなされる。これはその信者が信じた瞬間に1回限りで行われ、以降ずっと油注がれた状態が継続する。

Ⅰ ヨハ 2：20 あなたがたには聖なる方からの注ぎの油があるので、みな真理を知っています。

- 聖なる方・・・聖霊
- みな真理を知っています・・・直訳すると、「（あなたがたは）すべてのことを知っています」 すべてのこととは、【救いを受けるために必要な福音に関する知識のすべて】である。

I ヨハ 2:27 しかし、あなたがたのうちには、御子から受けた注ぎの油がとどまっているので、だれかに教えてもらう必要はありません。その注ぎの油が、すべてについてあなたがたに教えてくれます。それは真理であって偽りではありませんから、あなたがたは教えられたとおり、御子のうちにとどまりなさい。

- だれかに教えてもらう必要はありません・・・信者は、すでに福音を聞き、理解し、それを信じたから救われて信者になっている。よって、今さら福音の内容について誰からも教えてもらう必要はない。
- 福音を信じて霊的に新生をした信者は、霊的成長の出発点に立った。ここからさらに進んで、聖書の霊的真理を学んでいく。その段階では、だれかに教えてもらう必要がある。そのために教師の賜物を受けた信者が備えられている (I コリ 12:28)。
- 信者は何のために霊的成長をするのか。キリストのからだである教会を建て上げ、聖なる祭司、王である祭司となるためである。

I ペテロ 2:4~5 主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが神には選ばれた、尊い生ける石です。あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して捧げる、聖なる祭司となります。

I ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。

聖霊による油注ぎは、信者を「王である祭司」として立てるための基盤である。

2. 証印・・・旧約聖書では証印は次のような用途で使われる。正当な権限や権威を持つ者
しるし＝所有者のしるし（Ⅰ列 21：7～9）、契約上の義務はすべて履行されたことのし
るし＝完成のしるし（エレ 32：10～15）、現状や処置が変えられないようにするしる
し＝保証のしるし（ダニ 6：17）→ このことから、証印を押された信者はどのような
立場になるのかが分かる。

(1) 証印は所有者のしるし

- ① 信者は、神のものとなった。信者は神の権威のもとにある者である
- ② 神の証印を破って、信者を神から奪うことは、誰にもできない
- ③ 信者は神の権威のもとにあると同時に、メシアの権威を行使する立場にもあ
る。主イエスの御名によって祈るのは、そのためである

(2) 証印は完成のしるし：証印は、信者の救いのためになすべきことはすべて、神の側
で完了してくださっているという表明

(3) 証印は保証のしるし：証印は、信者を贖いの日（からだの復活のとき）まで守ると
いう神の約束の表明である。よって、信者は贖いの日まで絶対に守られる

エペソ 1：11～14 またキリストにあつて、私たちは御国を受け継ぐ者となりました。すべてをみこころによる計画のままに行う方の目的にしたがい、あらかじめそのように定められていたのです。それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためです。

このキリストにあつて、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証です。このことは、私たちが贖われて神のものとされ、神の栄光がほめたたえられるためです。

エペソ 4：30b あなたがたは、贖いの日のために、聖霊によって証印を押されているのです。

3. 内住・・・内住とは、聖霊が信者の中に、宿ってくださることである。内住は、聖霊が「もう一人の助け主」となってくくださるためである。しかも「いつまでも」である。決して一時的ではない。

ヨハネ 14:16～17 そしてわたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます。この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたとともにおられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。

- (1) 「いのちの創造と保持」は聖霊の働きである（資料 9 ページ）。そして、次のロマ 8:11 にあるように、将来、信者の朽ちる体を不死の体に変えるのも、聖霊の働きである。その聖霊が信者の中に住んでおられるということは、信者の復活が疑いもなく保証されていることを示す。

ロマ 8:11 イエスを死者の中からよみがえらせた方の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、キリストを死者の中からよみがえらせた方は、あなたがたのうちに住んでおられるご自分の御霊によって、あなたがたの死ぬべきからだも生かしてくださいます。

- (2) 内住は、「信仰の従順」によって与えられる。この信仰とは、福音を信じて救われるときの信仰である。信者が従順に信仰生活をしていけば与えられる、という意味ではない。

ヨハネ 6:28～29 すると、彼らはイエスに言った。「神のわざを行うためには、何をすべきでしょうか。」イエスは答えられた。「神が遣わした者をあなたがたが信じること、それが神のわざです。」

使徒 16:29～31 看守は明かりを求めてから、牢の中に駆け込み、震えながらパウロとシラスの前にひれ伏した。そして二人を外に連れ出して、「先生方。救われるためには、何をしなければなりませんか」と言った。二人は言った。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます。」

- あなたもあなたの家族も救われます・・・その人にとっても、その人の家族にとっても、救いの条件は同じ。一人ひとり、主イエスを信じるかどうか

かである。だれかが信じたら、その家族全体も救われるというような教えは、聖書には、全くない。

ガラ 3:2 これだけは、あなたがたに聞いておきたい。あなたがたが御霊を受けたのは、律法を行ったからですか。それとも信仰をもって聞いたからですか。

ロマ 1:5 この方（キリスト）によって、私たちは恵みと使徒の務めを受けました。御名のために、すべての異邦人の中に 信仰の従順をもたらすためです。

- すべての異邦人の中に・・・直訳「あらゆる国の人々に」

- (3) 内住は、新約時代の恵みである。なぜなら、新約時代の内住はすべての信者に与えられ、そして永続的だからである。
- (4) 内住は、教会時代の神殿である。聖霊は、目に見えない普遍的教会の中に、そして目に見える地上の地域教会の中にも、内住する。信者は教会の一員であるから、信者は、3つの意味で神の神殿となる

- ① 普遍的教会の一員として（エペソ 2:20～22）

エペソ 2:20～22 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって (御霊にある) 神の御住まいとなるのです。

- ② 地域教会の一員として（I コリ 3:16～17）

I コリ 3:16～17 あなたがたは、自分（たち）が神の宮であり、神の御霊が自分（たち）のうちに住んでおられることを知らないのですか。もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。

- あなたがた・・・信者たちの集合体＝地域教会
- 神の宮（単数形）・・・ここでは、地域教会を指す

- ③ 個々人の信者として（I コリ 6:19）

I コリ 6:19 あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住んでおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがた自身はもはや自分自身のものではありません。

4. 聖霊のバプテスマ・・・信者は皆が、信じた瞬間に、目に見えない普遍的教会に属する者とされる。聖霊が信者をキリストにつなげ、「キリストのからだ」とも言われる普遍的教会の一員にする働きが、聖霊のバプテスマである。聖霊のバプテスマは、聖書では「キリスト・イエスにつくバプテスマ」とも呼ばれる。

ロマ 6:3～5 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた 私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたのではありませんか。私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。

コロ 2:12 バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。

- 信じた・・・聖霊のバプテスマを受けるのは、信じたその瞬間である。何を信じたかという点、「キリストを死者の中からよみがえらせた神の力」である。この神の力を信じるという中には、キリストの死の意味、すなわち「私たちの罪のためであった」という信仰告白も当然含まれる。

I コリ 12:13 私たちはみな、ユダヤ人もギリシア人も、奴隷も自由人も、一つの御霊によって バプテスマを受けて、一つのからだとなりました。そして、みな一つの御霊を飲んだのです。

- 一つの御霊によって・・・聖霊のバプテスマは、聖霊が、信者を、キリストにつなげて、一つのからだ（キリストのからだ、普遍的教会）とする働きである。

ガラ 3:26～28 あなたがたはみな、信仰により、キリスト・イエスにあって神の子どもです。キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もありません。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。

聖霊のバプテスマとは、**聖霊が信者をキリストにつなげ、「キリストのからだ」とも言われる普遍的教会の一員にする働き**。ポイントは、次の3つ

- (1) 聖霊のバプテスマは、**今の教会時代にのみ、特有の働き**である。
 - ① 旧約聖書の時代には、聖霊はそのような働きはしなかった。旧約聖書の時代にはまだ教会は誕生していないからである。
 - ② 紀元 30 年五旬節の日に聖霊が降り、教会が始まった。この時から教会時代が始まり、聖霊のバプテスマも始まった。
 - ③ 大患難期の前、**教会が地上から携挙される時、教会時代は終わる。聖霊のバプテスマも終わる。**
 - ④ 教会時代が終わった後、大患難期、そしてその後の、メシアの王国（千年王国）では、聖霊のバプテスマは起きない。大患難期やメシアの王国の時代にも、人は救いを受けて信者となる。しかし、彼らは信者ではあるが、教会に属する信者ではない。
- (2) 聖霊のバプテスマを**実行するのは、直接的には聖霊**であるが、聖霊を遣わすのは、父なる神と子なる神（メシア）である。よって、メシアも実行者と言える。洗礼者ヨハネが「私はあなたがたに水でバプテスマを授けましたが、この方は聖霊によってバプテスマをお授けになります」（マルコ 1:8）と言ったのは、メシアが間接的な実行者だからである。
- (3) 聖霊のバプテスマは、**教会時代のすべての信者が、信じた瞬間に受ける**ものである。信じた後に、それを求めたり、熱心に信仰生活を送った褒美として与えられたりするようなものではない。

エペソ 4:4~6 あなたがたが召された、その召しの望みが一つであったのと同じように、からだは一つ、御霊は一つです。主はひとり、信仰は一つ、バプテスマは一つです。すべてのものは上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにられる、すべてのものの父である神はただひとりです。

(注) 聖霊のバプテスマを、聖霊の満たしと混同しないように。聖霊の満たしについては、次回の「信者の霊的成長のための聖霊の働き」のテーマで扱う。また、使徒の働きでは、聖霊のバプテスマには異言が伴っていた。これについては、「聖霊の賜物」のテーマで扱う。